

令和 2 年度第 1 回市川町総合戦略会議録

会議名	第 1 回市川町総合戦略会議
開催日時	令和 2 年 7 月 17 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
開催場所	市川町役場 4 階 相談室
出席者	委員：小野康裕、前田盛雄、小橋浩一、村上和男、北尾政憲 井上太郎、長尾克洋、吉澤幹夫、村田敏朗、岩木和子、 木村重己、澤田克彦 町：岩見町長、藤原副町長、内藤企画政策課長、近藤地域振興課長、 藤後課長補佐、青木主査
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 委員長、副委員長の選任について 3 協議 (1) 令和元年度実施事業の評価について (2) 令和 2 年度事業内容等について (3) 新型コロナウイルス感染症にかかる支援事業について 4 閉会
会議資料	【事前配布分】 ・市川町総合戦略進捗管理シート（K P I 用） ・第 2 期市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・第 2 期市川町総合戦略進捗管理（R2～R7）年度実施事業の評価について 【当日配布分】 ・令和 2 年度市川町総合戦略会議委員名簿 ・座席表 ・市川町総合戦略会議設置要綱 ・令和 2 年度市川町新型コロナウイルス感染症対策事業一覧 ・市川町人口ビジョン概要・第 2 期総合戦略概要 ・R1 高校生との意見交換まとめ、川辺小 6 年生と町長との座談会まとめ
協議 事務局	3 協議 (1) 令和元年度実施事業の評価について 2 月の総合戦略会議ではまだ令和元年度の実績を出せていないものもあつたため、市川町総合戦略進捗管理シート（K P I 用）をもとに、変更のあつたものについて説明 5 創業支援

	<p>31 年度の欄で、2月の時点ではゼロと報告していたが、1件申請有。「しるめて」という簡易宿泊業</p> <p>13 人・農地プラン 前は4件としていたが、完成予定のところ年度内に完成できなかったため3件に変更。</p> <p>24 若者向け住宅取得支援 前回は17件としていたが、実績は18件。右の内訳を、町内9件、28人に修正を。</p> <p>25 婚活施策 昨年度1回予定していたが、新型コロナの影響により中止。 婚活施策については、担当課も毎年方法を変えて実施してきたが、毎回参加者を集めるのに苦労している。1組は成婚までいったが、その他は特に成果を感じられないため、第2期の総合戦略からは外した。</p> <p>・判定、実績値の欄 5年間経過して、目標値をクリアしたものはA、クリアできていないものはC、できていることもあればできていないこともあるものについてはBで判定。 5年間の各事業の評価としては、A,Bが多くなっているが、人口減少の抑制にまでは至っていないのが現状。 昨年度の総合戦略の見直しで、移住定住に関する施策が少なかったことから、第2期の戦略ではそれに関する事業を増やし、市川町ならではの特色を活かすため、様々な分野でゴルフを巻き込んだ取り組みを予定している。</p> <p>(2) 令和2年度事業内容等について 第2期市川町総合戦略進捗管理(R2~R7)をもとに説明 特に規模の大きいもの、進展のあったものについて報告</p> <p>4 創業支援事業 令和2年度2件見込み。そば屋と療術院。</p> <p>14 空き公共施設・遊休地の利活用 令和2年度に入って東川辺の分譲地が2件売れた。千原・東川辺の分譲地は合計14区画のうち、残り6区画となっている。</p> <p>27 特色ある教育の推進 前回の会議で、委員長からプログラミング教育と英語教育についての意見をいただき、それを反映して付け加えた。内容や方法、補助制度の活用などについて今年度検討する。</p> <p>39 駅施設の環境改善 基本計画の策定、鶴居駅トイレの改修工事について、JRや関電と協議しながら進めている。次回の総合戦略会議では、いづらか絵をお見せできる</p>
--	---

	<p>予定。</p> <p>40 住宅リフォームへの支援 所得制限や事業所についての制約が厳しく、昨年度までの3年間で1件しか申請がなかった。昨年度末に要綱改正をして条件を緩和。今年度2件申請が出てくる見込み。</p> <p>42 高齢者見守りサービスの向上 見守りロボット、パペロの貸し出し。今年度は4件貸し出し中</p> <p>43 健康増進施策の推進 健康ポイント制度はすでに導入しているが、保健福祉センターの事業にとどまらず、スポーツセンターでの健康づくりに関することなども加え、連携して行えるようなポイント制度に改善することを考えている。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>何か質問があれば質問を。なければ全体的なご意見を。</p> <p>令和2年度以前から計画にあがっている情報発信拠点の整備について、たくさんの人に来ていただきお金を落としてもらえるような施設にしてほしい。アイアンの試打ができて売れる、ということができれば一番いいと思うが、それも含めて現在どういう計画で進んでいるのか。行政だけで決めてしまうと後で修正できないことになるので、業者の方やいろんな方の意見を幅広く聞きながら進めていただきたい。このことも含めて現在の進捗状況についてお聞きしたい。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>昨年度基本計画を策定し、今年度は基本設計と実施設計と駐車場の整備、展示の方の設計をする予定で動いている。今年度の予算については2,840万円。来年度工事に着工していく。完成は令和3年度末を予定しているが、遅れる可能性もあり、令和4年度にオープンということになるかもしれない。</p> <p>運営形態はまだ確定していない。今年度で、総務、企画、教育委員会を含めて相談して決めていきたい。ゴルフだけではなく観光のPRも兼ねて、多くの人に来ていただける施設にしたいと考えている。</p>
<p>委員 地域振興課長 委員</p>	<p>具体的な中身のことはまだ決まっていないのか。</p> <p>まだ決まっていない。今年度中に確定する予定。</p> <p>地域の特産品などの販売と書いてあるが、現在も販売スペースが非常に狭い。ゴルフ関係と共有できるような配置を考えてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>民間の個別の事業所が取り組んでおられることだが、共栄ゴルフが始められたオンラインでの工場見学。非常に関心が高く、コロナ禍の中で試行されたということで取材をさせていただいた。先ほどスペースが限られているという話があったが、新型コロナの感染状況を見ると、観光を控える動きも今後出てくるリスクもあるので、オンラインでの発信を強化されてはどうかと思うが、そのあたりのことを教えていただきたい。</p> <p>この前観光交流センターに手土産を買うため立ち寄った。クッキーと藤</p>

<p>委員</p>	<p>本製菓の和菓子があったが、帰省客が手土産に買えるような、また観光客が土産に買えるようなものの品数がもう少しあればいいなと思った。</p> <p>市川町へ行ったという証になるようなお土産がないということで、“せんべいプロジェクト”を立ち上げている。市川町のお土産になるようなせんべいを考えている。その他に、鶴居のさつまいもを干し芋にできないかと考えている。せんべいは近々できあがる予定。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>オンラインでの発信については、取り入れられるようであれば取り入れていきたい。発信拠点については体験できるブースと試打する場所、シミュレーションを設置する予定。シミュレーションを使ってイベントなどもゲーム感覚でできるのではないかと考えている。また決定ではないが、これまで市川ゴルフで行ってきたゴルフまつりの拠点を情報発信拠点に移し、サテライト方式で、いろんな業者でいろんなイベントをするような形で実施できないかと考えている。イベントも年に何回か行い集客も図っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>私の部屋の机の前に市川町のゴルフヘッドが並んでいる。部屋に来られた方でゴルフをされる方は、まずそれが目に入る。これだけの数が並んでおり、これだけの数が市川町にある、数を数えても市川町にたくさんあるということが分かる。情報発信拠点施設で、目で見て分かる、そして体験できる、ということはとても大事。ただ、初めてそれを知る人もおられるので、情報発信の仕方が大事だと思う。オンラインも含め、来ていただくたくさんの方がおり、パンフレットにも歴史の記載があり、情報をまとめて発信する仕方も必要ではないか。現在は集客施設について、自粛要請が行われたり、コロナ対策もしたりしなければならない。初めからそういうことも考慮しているような設計をすべきではないかと思う。展示物も、密集していて人が集まって見にくいというようなことがないよう、映像を使って別の場所で見られるようにするなど、そもそもの想定をした見せ方をするべきではないか。今の段階では間に合うと思う。コロナを想定した施設であることも1つのPRになると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>情報発信拠点の整備に反対するつもりはないが、注意すべきだと思うのは、情報発信拠点の整備は、観光ではなく交流人口につながるものということ。観光と交流を交ぜてしまうと、よく分からないものになってしまうか。先日神戸新聞にもあったが、市川町にはわずかな観光客数しか来ていない。頑張っている印象の神河町ですらその3倍ほどしかない。これで人口減の食い止めにつながるのかどうか考える必要がある。情報発信拠点をもって観光に力を入れていくのか、国産ゴルフアイアン発祥の町としてゴルフクラブを通じた交流人口を増やしていくのか、来ていただく観光の人数を増やしていくのか、ここの整理をきちんとするべきではないか。交流人口には限界はあるが、関係人口はまだ振れ幅があると思うので、</p>

副委員長	<p>ゴルフクラブを通じてどのように関係人口を増やしていくのか、市川町の地理的な位置をどう活用するのかなど、戦略的な方法も必要ではないか。建物ができてからソフトを考えるのではなく、建物を作る前からソフトを認識、分類して、民間がすべきこと、行政がすべきことの線引きをはっきりした中で進めないと。オープンしたが数年後にはどうしよう、というようなことにならないようにしてほしい。</p>
委員長	<p>情報発信と言われているが、市川町だけで取り組んでもできることは限られていると思う。ダンロップやミズノなどの業者と協力していく、あるいは韓国の女子プロはスタイルも成績も良く人気があるので、そこへ市川町のアイアンを持って行って使っていただいて、この人が使っているのは市川町のアイアンだと発信してもらえるような工夫をすれば、より観光や交流につながっていくのではないか。</p>
地域振興課長	<p>ゴルフ業界も、いろいろされているところもあるし、下請け一本のところもあるし、いろんな意見があったと記憶している。それはまた業者側の役割で分類が必要だと思う。</p>
委員長	<p>ゴルフまつりについて言えば、ゴルフクラブを宣伝するためではなく、ゴルフを通じて市川町を活性化したいという思いから、ゴルフの事業者の方が集まってくださったという経緯がある。町としても地場産業であるゴルフクラブをPRしていきたいところであるが、業者によっては宣伝をしないということもあるので、調整しながら発信していきたい。</p>
委員	<p>ウィズコロナの時代、健康増進にゴルフをどう取り入れるのかが町内の1つの役割であることは間違いない。そういうことも含めてよく検討いただきたい。</p> <p>観光資源の話も出たが、お土産や産業について商工会事務局長、何かないか。創業のことや、市川町に來られて疑問に思われることがあれば。</p>
委員長	<p>創業に関しては、最近では趣味から始められるような創業、農業に絡めた創業が多いと感じる。今年度、飲食関係の創業もあるが、経験して独立するという方もあれば、全く畑違いの創業を目指す方もいらっしゃる。特に畑違いの創業を目指す方は、お金の話から入って來られたりするので、止めることが多い。市川町には創業支援補助金があるので、創業者にとっては非常に助かると思うが、その補助金をどう使おうか、というところに意識がいつてしまい、全体の資金計画が弱いと感じる。合わせて、収益モデルがあまり確立していない。コアになるサービスがぼやけてしまって、勢いだけで創業したいという方が多い。そういう方をきちんと導いて、支援していく必要がある。創業は時間がかかる場合が多いので、注意しながらやっていく。</p>
委員長	<p>先ほどあったように、市川町での創業は農産物の加工が絡むところが多い気がする。</p>

委員	<p>新しい商品を追うのもいいが、昔ながらの農産物を見直すことも重要ではないか。鶴居の方でさつまいもをされているが、どのような運営をされているのがぼやけてしまって分からない。1年目はダメだったとか2年目はどうだったとかということが、我々には見えてこない。さつまいもをどういう形で新しく商品化していくかについては、皆で考えたほうが良いと思う。</p>
委員長	<p>私の意見であるが、特産品を考える上で人口減少とか人口密度とか見ていると、市川町でも地域によって非常に差が大きい。瀬加では人口も減っていて危機意識もあるためか、お店を始められる人も見受けられる。国道沿いや川西では、あまり創業は見受けられない。危機感があまりないのかなという気もするし、交通もある程度便利なので福崎・姫路の商業圏の中での生活圏として捉えておられるのかもしれない。市川町での特産品を考えていく上でも、瀬加地区、川辺地区、甘地地区、鶴居地区の特性を考えていく必要はあるのではないかと。神河町でも各地区の営農組合に何か一つ考えてほしいと言ってきた集大成が今の特産品づくりにつながり、加工が可能になってきたのだと思う。瀬加におけるニンニク、オーガニックは非常に売り出しやすい素材であると思うし、さつまいもについては全国的にブームにもなっていることから、この中で勝ち残っていくのは大変な商品だと思う。市川町の中でも戦略的に線引き、色分けが必要ではないか。</p>
地域振興課長	<p>さつまいもの話が出たが、鶴居の喫茶店については、残念ながら4月以降閉店となってしまった。地域の特定の方が非常に頑張っておられたが、採算をとるのは難しかった。商売を起こすのは簡単かもしれないが、儲けていく、維持していくのは難しいところ。創業支援で、今年度も3件分の予算を計上していただいている。以前税務課に8年いて滞納整理の仕事もしていたが、市川町は近隣の市町と比べて滞納者も多く、給与所得者の割合も少ない。個人的には創業支援に予算を付けるのではなく、商売を起こして3年継続した、さらに拡大していくという方に支援をするべきではないかと思っている。とりあえずやってみようかな、というような収益モデルがきちんとできていないところに補助しても、結果的には何も残らなかったということもあると思うので、そういうところは見直していくべきだと思う。</p>
委員長	<p>もともと市川町は水田、稲作向き。その中で畑作をしようとするとは相当な努力が必要。私も文化農場を経営しているが、コロナ禍になってから、入ってくる相談の内容が変わってきた。例えば、大手の建材製造販売メーカーから、手薄な家庭菜園部門を一から設計をしておいて、協同製作のような形でやりたい、というような相談が2件あった。また百貨店も家庭菜園向けのセミナーや家庭菜園に特化した衣料品などの展開をしたいので、企画開発をしてもらえないか、というような話を向こうから持ってくるよ</p>

	<p>うになった。大手量販店についても、上から言ってくるようなことが多かったが、GW以降はこちらの意見を聞くような感じに変わってきた。それほど大手が危機感を持たれている。農業は、天候に左右されるが苦境には左右されにくいと言われる。これから、商業、工業、農業といった中の農業部門には注目が集まるということは、間違いないのではないかと。そういう意味では、市川町は何もないと言いながらも農業に関しては技術を持った方が大勢いらっしゃるし、営農組合ももう少し底上げをすればしっかりできる素地はあると思うので、総合戦略の上でも農業部門に関して言えば、昨年までとは違うレベルに入ってきているのではないかと。</p>
副町長	<p>行政からというよりも私個人の意見も含めてになるが、農業に関して言うと市川町でもかつてはピーマンやイチゴ、林産物になるがシイタケなどについては、地域の名前から笠形ピーマン、笠形シイタケなど、ある程度ブランド化していた時期もあった。そういう意味では農業については底力があるのかなという気もする。瀬加の方では現在オーガニックでもブルーベリーに力を入れたり、ニンニクを作る所もあったりと、規模は大きくなっていてもいろんな分野で事業を起こしていくこともいいと思っている。</p>
委員長	<p>この前千葉県へシイタケの状況を見に行ったが、ものすごい活気だった。中国産が入ってこない、消費者が中国産を避けるといった影響で、景気はいいが問題がある。中国人の研修生が独立して、千葉県のシイタケの7割を中国人が作っている。いろいろ調べてみると、加古川の肥料メーカーがバカマツタケを2年ほど前に出されていた。ああいうことに真剣に取り組んでみるのも、利益を出す可能性もあるのではないかと。もともと瀬加には、マツタケで客を呼ぶ風習があったので、まだまだ可能性はあると思っている。</p>
委員	<p>就労にも関わってくるのではないかと。コロナで就職状況が厳しくなっており、新規学卒者も面接をリモートで行なったり、新規採用者も会社へ行く回数が少ないなどといった状況。この状況を農林事務所では、新規就農獲得のチャンスと捉えている。巣ごもりをしても食べる必要はあるので、供給する側は供給していかなければならない。それを一つの産業として、若い人に就職先としての認識を持ってもらう。新規就農者の獲得のために県もこれまでも努力しているが、今さらにPRするべきときではないかと、と力を入れていくことにしている。お互いいろいろな情報を出し合ってやっていく転機になるのではないかと。</p>
地域振興課長	<p>さつまいもやブルーベリーの話が出たが、現状は規模が小さすぎて採算はとれないのが現実。これから規模を大きくしても薄利多売なのかなと思うし、規模を大きくすると人手が足りない。営農組合の存続も危うい時代なので、地域が立ち上がってやろうとなっても人手が足りない、規模が小さいなど、なかなかバランスが取れない状況。今地域振興課で目を付けて</p>

<p>委員長</p>	<p>いるのがバジル。たつの市のささ営農でのバジルの経験を活かして、新規就農の方が今町内で徐々に広められている。若い人に農業に目を向けていただきたいが、儲からないと誰もしない。儲けていける実績を見せると、やろうという人も出てくるのではないかと思う。</p> <p>農業は基本的には儲からない。儲からないししんどいのでする人がいない。ただ、暮らし方としては、農業の選択肢は広がってきていると思う。今課長がおっしゃるように、産地化だけが農業ではないので、関係人口を作ることと言うと、ブルーベリーを作って会社の人や親せきに送っている、あるいは米など送っている人はたくさんおられる。これは関係人口だと思う。市川町へ田植えに来てもらうとか稲刈りを手伝ってもらうとか、個人個人がどう広げていけるかが、関係人口作りにつながると思う。農業で儲けようとするなら、あるいは産地化を目指そうとするなら、日本の気候に合わないものもあるので、品種を相当選ばなければならない。商いとしてするものと、関係人口を増やすものとは別物。地域の発展のためには関係人口を増やしていくという個々の動きが手っ取り早いし、予算もあまりかからないことなので、そこをどう皆さんに意識づけしていくか、ということが行政側の仕事になってくるのではないか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>就農人口に関して、以前テレビで、働く外国人の比率が市川町は県内で一番高い、ということをしていた。いろんな製造業でいろんな国から来られていて、人口に占める割合が高いということだと思うが、農業も担い手が不足するという状況であれば、外国人の方に来ていただいて手伝っていただくようなことも考えてはどうか。この前、企業の方と話をしたとき、カンボジアの方が非常に誠実で真面目に仕事をしてくれる、ということ言われていたが、外国人の手を借りるのも一つの手かなと思う。合わせて、外国人に来てもらうには住むところが必要なので、家を町の方で斡旋するとか、空き家を借家にするとかしてはどうか。また市川高校生を巻き込んで農業体験をしてもらうことも、市川町での就職、移住につながるのではないかと思う。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>西田中のパチンコのところが、ずっと放置されたままになっているのがもったいない。以前農業関係の会議で、行政としてどうされるのか、ということ質問すると、個人のことなので行政としては何もできない、というような回答だった。それはもちろん分かっているが、そういうことではなく、町としてこういうことを考えているので、あの土地をこういうふうにしてほしい、などの積極的な働きかけをして、例えば宅地にするとか、道の駅にするとか。家ができるのであれば外国人の方にそこに住んでもらうなどしてはどうか。</p> <p>情報提供になるが、屋形のパチンコ屋も西田中も、最近購入された方はおられる。</p>

<p>委員</p>	<p>家に笠形ピーマンと書かれた箱や袋がたくさんあった。私の子ども達も小さい頃は手伝っていたが、当時は個人店がたくさんあったので、そういうところへ持って行くと早朝の市場へ出していただいていた。今は近所の家でも、お米はイノシシや鹿が出るので作れないということで、野菜を作って旬菜蔵へ出荷される方が増えている。ここへ来る途中、にんにく村がニンニクの販売の準備をされていたが、テントの下のテーブルも手作りになっていて、地域が非常にまとまっているのを感じた。</p> <p>また健康ポイントについて、ポイント交換が5月までだったがコロナの関係で延長されたと広報に載っていた。近所の方と話をすると、忘れていて交換していない、という方がおられた。広報に載っていたという話をしたが、やはり隅々まで読まれない方もおられるので、ポイント交換の時期がきました、ということを防災無線で是非お知らせしてほしい。それと、高齢者の中には、ポイントの用紙はあるが、保健福祉センターに行かないとポイントを書いてもらえないので、そういう不便さもあるのではないかと感じた。ふれあいなどに参加してポイントを貯めておられる方もいらっしゃる。健康な身体づくりに前向きになると思うし、とてもいい制度だと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>コロナのことがあり、こども園もできるだけ家庭でみていただきたい、ということになったので、普段孫と関わっておられない方が孫と長く関わるということになり、大変だったと聞いている。公園も行けないし図書館も閉まっているし、不便な思いをされていた。</p> <p>子育て支援については、市川町は充実してきたと思う。子育て支援センターは自粛要請の間どうされているのかなと思ったら、施設には行けないので電話相談をされていて、何件か相談があったらしい。自粛の期間中も子育て中の家族の方の力になられていたようだ。</p>
<p>委員長</p>	<p>コロナの間はいろいろ難しいと思う。コロナ疎開が話題になった時期もあったが、食べることや空間の広さで頼りになるのは田舎だということ。その辺りを今後市川町のアピール素材にしてもいいのではないかと。ふるさと納税はコロナの影響でどうなっているか？</p>
<p>事務局</p>	<p>今のところ昨年度とほぼ同額、同件数で推移している。自粛中、ネットショッピングの感覚でされているのではないかと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>やはりネット購入は確実に増えている。これから人口増減を考えるときにネットを無視できないことはたくさんある。</p> <p>10年、20年後に人口が大きく減っていく中で、地域、田舎に住んでも行事や草刈りや溝掃除などに出ていけない、という話が必ず出てくるし今もあると思う。そこをどう解決するのか、総合戦略の中でも必要なテーマだと思うし、住みやすい、暮らしやすいという価値観も、今の若い人たちと我々の年代とは違うと思うので、この辺の議論を入れておかないといけな</p>

<p>委員</p>	<p>いのかなと思う。ふるさと納税は関係人口なので、ふるさと納税をしてくださる人と我々の町とどう関係を保つか、ということも総合戦略の中の大事な項目である。</p> <p>お願いとコマースを兼ねてになるが、総合戦略の中に笠形オーガニックと地域おこし協力隊の関係がある。2点市川町にお願いしたいのは、1つは以前にもお話をさせていただいたが、上牛尾の方に移住したいが家がない、という状況だということ。市川町全体でも空き家に関する取り組みはされているが、上牛尾に移住して新規就農しようという人が、他のところで家を構えてというのはやはり難しい。地元で農作業ができて機械もあって、という環境が必要だと思う。5年後、10年後に高齢者の方が亡くなられて空き家が増えてくると思われるので、その新たな活用も考えながら、スムーズに新規就農できるような環境を作ってほしい。2つ目は、地域おこし協力隊の久林さんについては、来年3月で地域おこし協力隊としての務めを終えられる。久林さんはこちらへ移住して自立される予定であるが、笠形オーガニックで活動していただける地域おこし協力隊の方を早期に確保していただきたい。今は広畑さんが事務局としておられるが、総務さんも2年で任期交替となる。笠形オーガニックは、自立とまではいかないまでも曲がりなりにも進んでおり、売上は伸びているし目標を掲げて事業を行っている。今笠形コーンが最盛期で、明日と明後日に直売会をされる。今年は16000本のコーンを植えられて、給食センターや業者、直売会などで100万円ほどの売り上げを見込んでいる。今申し上げた2点、地域おこし協力隊の確保と空き家についてご尽力いただきたい。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>週末に予定している直売会で、笠形コーンは完売できる見込み。地域おこし協力隊については、久林さんが3月で終わるので来年度の人を募集していく予定。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>外国人についても同様であるが、目的に合った地域で住める場所の確保が必要ではないかと思う。空き家だけで考えてしまうと、欲しい所がないという状況。この地域に住みたい、という方もおられるので、何か方法がないかこれから考えていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>27の私の提案で入れていただいたプログラミングと英語教育について、これは難しく考える必要はない。例えば小学校でミニトマトを育てておられるが、このミニトマトが収穫されるまでをプログラミングするとどうなるのか、というようなレベルでいいと思う。英語についてもミニトマトの収穫までを英語で学ぶ、というようなこと。次の段階にいくと、例えば笠形オーガニックのとうもろこしをどうやってプログラミングしていくか、英語で学ぶとか、そういう関連を持たせた教育が、郷土愛を醸成させるという意味でも関連性が保てると思う。是非ともそういうプログラミング、英語という考え方で進んでもらえたらと思う。</p>

委員	<p>働く環境という面について、新型コロナウイルス対策で9割の人が在宅勤務で、リモートで仕事をするようなことになった。コロナだけで終わるのではなく、これからもそういう在宅勤務を拡大していこうという、働き方改革の動きが進んでいる。働く人の環境も大きく変わる中で、定住とか住宅取得とか、特に遠距離通勤者への助成施策があるが、神戸であろうが在宅勤務になると、市川町からでも仕事ができるようになる。通信の強化であるとか、リモートで家でもしっかりできるようなサポート、また住みやすさの面では、先ほどのポイントの話もそうだが、行政への申請とか足を運ばずにできるような時代になってくるので、そういった長期的な投資も必要なのではないか。働き方が変わってきたということを認識いただいて、今後の計画に反映させていただいたらと思う。</p>
委員長	<p>リモートは本当に広がってきている。今コワーキングスペースが流行っているが、廃校になった学校の教室をリモートワークのスペースとして今後は使える可能性が出てきた。いろんな応用が利くし、むしろ田舎の方が喜ばれるのではないかと思う。</p> <p>議会も改革が必要な部分があるのではないかと思う。人口減少になって議会議員を確保することも難しい時代になるのではないかと思うが、その辺りも含めて何かあれば。</p>
委員	<p>人口減に歯止めがかからない状況が続いているので、議員定数も問題になるが、次の選挙から供託金が必要になることもあり、まず議員のなり手不足が心配される。私から言いにくいですが議員の質の問題も問われる。新聞等で見られたと思うが2人の議員が報道された。辞職勧告をしたが拘束力はないので、そのまま活動は続けておられる。いろんな問題があり悩んでいるところ。</p>
委員長 委員	<p>他に言うておくべきことはないか。</p> <p>第2期の進捗管理の5番、経営発達支援事業を入れていただいている。なじまない言葉だと思うが、平成26年に小規模基本法が制定された。それに伴い、商工会や商工会議所が小規模事業者の支援をする支援法も改正され、その中で商工会や商工会議所は策定した計画に沿って小規模事業者の支援をしていくことになっている。本来商工会は経営、労務、税務、金融を中心に成り立ってきたが、時代の変遷を経てイベントなども担うようになってきた。商工会がある地域では人口減少が進んでおり、事業所についても廃業していくと思われる。特に小規模事業者については親夫婦が事業をして子どもたちは働きに出ている、事業者の方は一方では消防をされていたり、自治会の役をされていたり、地元で商売をされている方が多いので、地域のいろんな役をされている方が多い。昨年度支援法がさらに改正され、町と一緒に計画を作り3月に経済産業省から認定をいただいた。但陽さんにも連携先ということでお手伝いいただく。進捗管理の事業概要の</p>

	<p>ところに、R 2に計画策定をするということになっているが、昨年度に策定はしている。R 2から5年間実行していくということで、ここの訂正をお願いしたい。R 3以降の内容については、経済動向調査とか、セミナーをしたり、セミナー後に計画を作られた方のフォローアップをしたり販路開拓の支援などをしていく。今年度たくさんの補助を付けていただいて実行するべきところ、コロナの影響で事業が進んでいないが、後半はこの辺りを進めるべく調整をしている。</p> <p>コロナに関して言うと、国の持続化給付金が事業所向けで行われたが、これはスマホで申請できるように開発されている。この辺りの事業所の方は高齢の方が多く、スマホのメールアドレスの見方が分からない、というような初歩的な質問でも来られる。スマホを持たれていない方については、こちらのパソコンで操作したりもしているが、事業を進める中で、我々としてもリモートが必要だと感じることもあるし、こういう状況だからこそ来られる方もおられるので、感染対策をとりながら受け入れる必要性も感じている。</p> <p>コロナの関係もあり、今年度からは地域振興課とも毎月情報交換をしている。町と商工会が一緒になりながら市川町のためにやっていきたいと思っている。</p>
事務局	<p>(3) 新型コロナウイルス感染症にかかる支援事業について 令和2年度市川町新型コロナウイルス感染症対策事業一覧をもとに説明。国の地方創生臨時交付金の対象事業として、すでに認められているもの、今後申請予定のものをあげている。7月の臨時議会で決定したのものについては、まだ今の時点では住民への周知はできておらず、今後チラシの配布、8月号広報、HP等で周知していく予定。</p>
副委員長 企画政策課長	<p>1～19まで内容と進捗状況を説明 これは国の交付金ですか？ 国の地方創生臨時交付金が市川町にも割り当てられているので、その中で行うもの。</p>
副町長	<p>今説明したコロナ関係の事業は、国の二次補正までの事業に係るもの。三次補正があるのでは、ということも言われているが規模等はまだ全く分かっていない。今計画している中でも申請がゼロ件というものがあつたが、事業費として残ってくるものがあれば次の新たな事業を考えていきたいと思っているので、是非ご意見をお願いしたい。</p>
副委員長 副町長	<p>マスクの備蓄もこの中でされるのか。 マスクの備蓄については保健福祉センターの方で行う。それと合わせて避難所のコロナ関連の消耗品も備蓄することになっている。</p>
副委員長	<p>マスクなどを各戸に配るといったことはないのか？</p>

副町長	今のところその計画はない。一時期マスクがない時期があったが、今は価格的にも安定しており、商品としてはあると思うので、この交付金の事業としては考えていない。
委員	学校の感染防止でレバー式にするという話があったが、せつくなので自動水栓化されてはどうか。
副町長	小中学校の水道については今のところレバー式を考えている。なぜかという、個別施設計画の中で近々改修工事をするようになっており、その際に水道設備の改修工事も行うので、そのときに自動化したいと考えている。その他の個別施設計画で計画にない施設については自動水栓化していく予定にしている。
委員長	全体として何かないか。 なければ、以前から言っているように、市川町はこういう町を目指しているというテーマ、岩見町長、是非とも出していただきたい。町民が理解できるようなはっきりしたテーマが人口減少抑制についても必要だと思う。リーダーシップがかなり要ることだと思うが、是非とも検討をお願いしたい。
町長	コロナの関係で言うと、前の総合戦略を作った時、東京一極集中の是正が強く言われていたと思う。今回のコロナ禍や東京の状況を見ていると、一極集中であったことの問題点が出てきているのではないかと、テレワークも活発になって、田舎の良さが見直されたのではないかと。これは我々中山間地の者にとってはひとつのチャンスと捉えていいのではないかと。ではどういうことを打ち出すのか、ということが問われている。その中で今回も戦略会議の中で皆さん方からご指摘いただいたことを次の総合戦略の中で位置づけていくことが大事。今小野委員長からのご指摘のあった、市川町をこうしていくという、特に関係人口も含めて定住につなげていくこと、市川町の人が市川町に対して愛着を持てるようなことをしていかなければいけないと考えている。
委員長 地域振興課長	是非ともお願いしたい。明確な方針は大事だと思う。 人口を増やすという話が出ているが、個人的には人口を増やすだけではだめだと思っている。いわゆる質が大事。人口を増やすにもまず市川町を知ってもらわなければならない。日本全国で人口が減る中で、人を取り合っても市川町の魅力は、と言われると難しい。人口を増やしたい、留めたいという議論をするのではなく、どうやって市川町を知ってもらうか、ということも大事。県外に出ると市川町のことを知っている人は本当に少ない。市川町のことを発信していかなければならないし、発信していくためにはイベントなども打ち出していかなければならないと思う。昨今、いろんなところで災害が多くなってきており、兵庫県は日本のほぼ真ん中で、そのほぼ中央にある市川町は、津波被害はまず起こらない、原発もない、

<p>委員長</p>	<p>災害もほとんどない、雪害もないいい所だと思う。この中途半端具合がとてつもない。全国でいろんな災害が起きる中で、市川町は災害も少ない、住みやすい、土地も安い、水も豊富、そういったことを発信していくチャンスかなと思っている。地域振興課ではいろんなイベントを考えており、どんどん発信していきたいと思っているので、皆さんのご意見、ご協力をお願いしたい。</p> <p>指を挙げないと誰も止まってくれないので、指を立てることは必要だと思う。指を立てた時に、町民が、この指は何、ということが分かるキャッチフレーズが必要ではないか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>(あいさつ)</p> <p>人口1万人から2万人までの規模の町を見ると、人口を持ちこたえているところは数少ない。数少ない町を見ると、大きな市のベッドタウンという特徴がある。コンサルを入れて市川町と似た規模の市町がどのような施策をしているのか調べてもらうのもいいと思う。</p> <p>パラサイトという言葉が流行っている。寄生する、依存するというようなこと。小さな町である市川町が何かに寄生する、依存していくことも、生き残っていくための1つの方法なのではないかと思う。一つは姫路市と組む、あるいは大都市と組むなど。特色ある都市に依存する、山のない所に依存する、大企業に依存する（大企業にきてもらう、大企業と組んで何かを作っていく）、成長の見込める企業に依存する、町の特色のある産業に関連する企業に依存するなど、パラサイトをキーワードにしていってもおもしろいのではないか。</p> <p>4 閉 会</p> <p>次回は来年2月頃に開催予定</p>